

# 泉の森 なんでも情報館

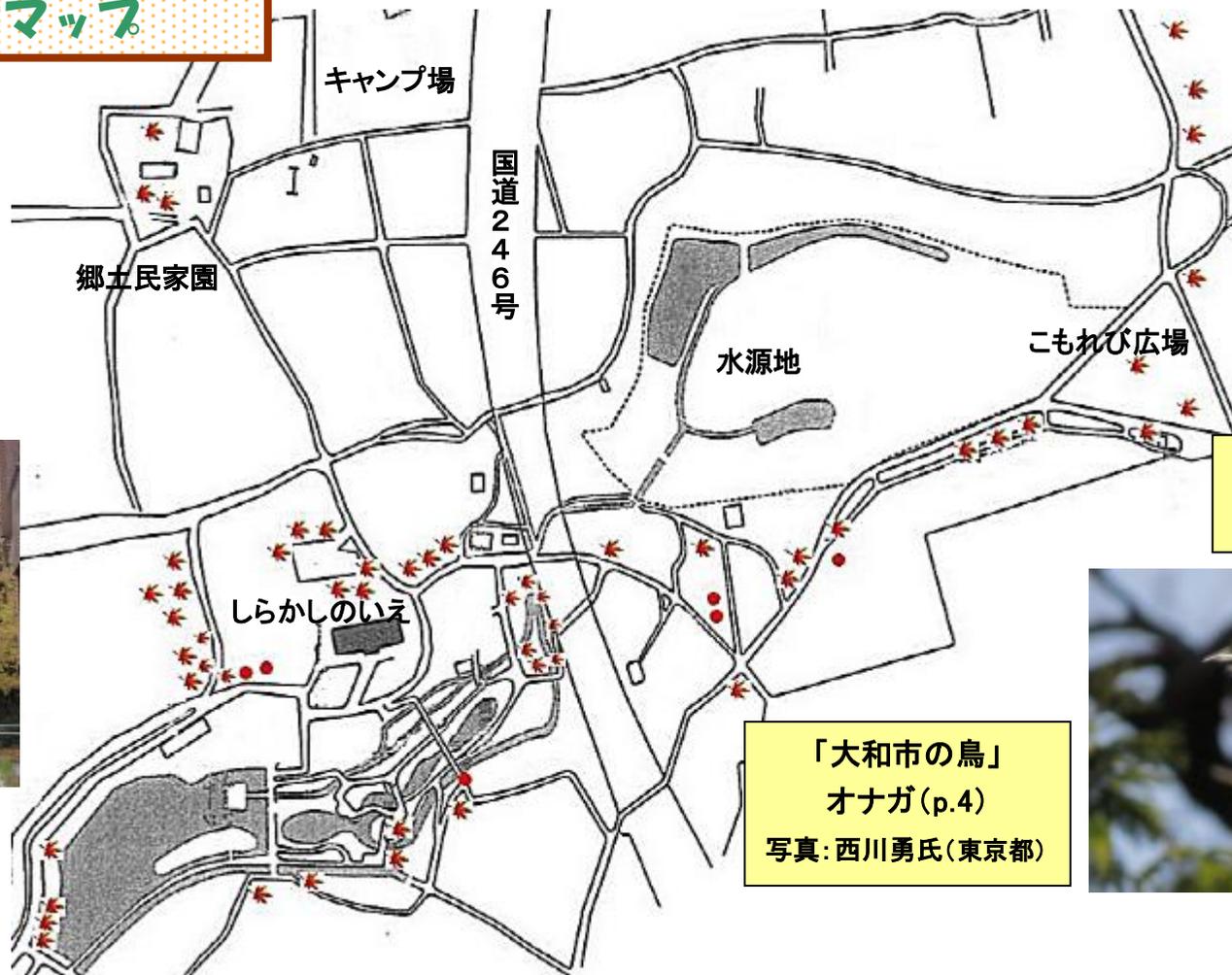
2013年 秋号(No. 11)  
発行 しらかしのいえボランティア協議会  
エリアマップ作成班

## クローズアップエリア その11 郷土民家園 (秋の巻)

第4号(2011年冬号)に続き、再び郷土民家園をクローズアップ。今回は、ここで  
行われる秋の行事を取り上げます。いつもの年とは一味ちがう十三夜のお月見は  
いかがでしょう(2ページ)。収穫の季節には、遠い日々を思いを馳せて、農作業  
体験を(3ページ)。普段何気なく食べているご飯が、愛おしくなりますよ。

### 泉の森 もみじマップ

今年の秋は、<安・近・短>の  
紅葉狩りを楽しみませんか？  
特にお勧めのスポットは2ペ  
ージをご覧ください。キノコや  
お芋のおかずにも栗ご飯など、  
季節感あふれるお弁当を準備  
して、さあ、出発！



民家園の十五夜飾り。  
十三夜もお楽しみ(p.2)



紅葉だけでなく、黄葉もお忘れ  
なく。しらかしのいえの前の  
ムクロジ・コブシは見事です！

「大和市の鳥」  
オナガ(p.4)  
写真: 西川勇氏(東京都)



## 十三夜

郷土民家園では10月に「十三夜」という行事があります。「十五夜は知っているけど十三夜ってなに？」という人もいないのではないでしょうか。十五夜はご存知のとおり、旧暦8月15日の仲秋の名月を観る月見のようですが、十三夜とは翌月の旧暦9月13日のお月見のようです。

十三夜は十五夜と並んで月が美しいといわれ、昔から日本では月見の習慣があります。十三夜は満月の前のほんの少し欠けている月ですが、それが又、趣があって良いそうです。十五夜の月見をしたらず十三夜も月見をしないと片見月といって縁起が悪いと言われてきました。江戸の吉原などでは十五夜の月見をした客には「十三夜も一緒に月見をしたい」などと言って客を呼んだとのこと。美しい花魁から流し目でこんなことを言われたらすぐ行く気になったかもしれませんね。なにしろ行かないと縁起が悪いのですから。

十三夜は栗などを供えることから「栗名月（くりめいげつ）」とも呼ばれています。大和でも昔は十三夜の月見をしていて、泉の森近辺に住んでいた方の記憶ではその晩はそれぞれの家で縁側などに団子や栗、柿、野菜、豆腐などを供えてお月見をしたそうです。この地域では子供がお供えの団子などを盗んでもこの晩だけはとがめず、却って、縁起が良いと喜んだそうです。子供たちにとっては楽しい晩で、方々の家を回っては竹の棒の先でそーっと団子などを刺して失敬しました。スリルを味わいながら食べる団子などはまた一段と美味しかったのでしょね。(家の人は子供に気が付いても知らないふりをしていたとのこと。)

この晩は家々を回って来ると腹一杯になったと経験者は語っています。

今年は、仲秋の名月が9月19日でしたが十三夜は10月17日です。かわいいお月見泥棒はいないかもしれませんが、お供えをして部屋の電気を消し煌々と輝く中天の月を観るのもまた良いのではないでしょうか。

☆ 十三夜について、市内在住の下田等さん、井上幸恵さんに貴重なお話を伺いました。

ありがとうございます。(橋本幸夫)



↑お月見にはやはり、ススキですね。

## 泉の森 もみじ写真館

泉の森には、50本以上のイロハモミジがあります。早いものは、10月末から色づきはじめ、11月半ばには、真っ赤に紅葉します。遅いものは、12月に入ってから紅葉しはじめ、年末まで楽しませてくれます。トウカエデの紅葉、ムクロジの黄葉(1ページの写真をご覧ください)も、きれいですよ。



← 園名石脇のもみじ



野外教室のもみじ



ひなた山のもみじ

### モミジの写真、ぜひカラーで見てください！

『泉の森なんでも情報館』は予算の関係上モノクロ版で配布しておりますが、インターネットでも見られます。[やまとナビ しらかしのいえ](#)で検索→「ボランティア情報」の[詳しくはこちら](#)をクリック→現れた画面をずっと下へスクロールしてゆくと「エリアマップ班」のコーナーにたどり着けます。ここで最新号ほかバックナンバーもご覧になれますよ。

# 昔むかしのお米作り～民家園の秋まつりと古民具～

毎年11月初めに民家園の秋まつりが行われます。秋の収穫時期に合わせ、稲の脱穀体験をメインにさまざまな催しがあり、今年も11月3日の予定です。ここでは民家園にある古民具を取り上げ、昔の農家でどのような作業が行われていたかを紹介します。

## 1. 稲穂から籾(もみ)を取る: 千歯こき・足踏み脱穀機

稲は、泉の森の水車小屋の横の田んぼでボランティアの皆さんが大事に育て、9月末に稲刈りをして、民家園の小川家の軒下で掛け干していたものです(水車小屋と田んぼについては、なんでも情報館No. 9参照)。

まずは千歯こき。櫛状の歯の間に稲穂を通して籾を取る道具で、1700年頃の元禄時代の発明とか。小川家は1700年代の半ばに建てられたそうですから、当時の最新設備を使っていたのかもしれませんが、やってみるとわかりますが結構力が必要で、重労働だったと思います。

その後、明治末1900年頃に発明され、昭和初期に普及して戦後まで使われたのが足踏み脱穀機(右の写真)。ドラムに逆V字の針金がたくさん刺してあり、足踏みペダルでドラムを回転させながら稲束をあてて脱穀します。千歯こきと比べて作業はとても楽だし早いですから、初めて使う当時の人達が大喜びした様子を想像してしまいます。

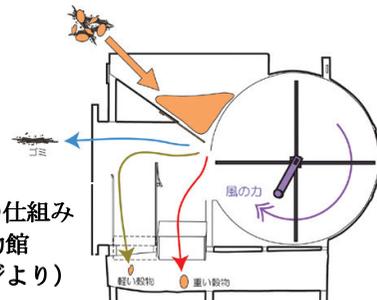
## 2. 籾から余分な藁や軽い殻を取り除く: 唐箕(とうみ)

箕(み)というのは、竹などで編んだちり取りのようなもので、昔は、脱穀した籾を箕に移し、空中高くあおり上げ、余分な藁や軽い殻を風で飛ばして分離していました。そこに登場したのが唐箕です。名前の通り、中国から伝わって江戸時代に使われ始めたといわれており、下の写真・図のように、手回し風車の風を利用して分別するものです。いつの時代でも生産性向上の努力があったんですね。



唐箕 (とうみ)

唐箕(とうみ)の仕組み  
(新潟県歴史博物館  
ホームページより)



千歯こき



## 3. 籾を精米する

民家園の秋まつりでは、選別された籾をすり鉢に入れ、野球ボールで擦って玄米にします。さらに玄米を一升瓶に入れて棒で突き、白米にすることも体験してもらいます(戦時中よくやったものだ、という方も結構おられます)。

しかし籾の量が多いとき、上記の方法では間に合いません。実は、後日、水車小屋の中にある水車駆動の臼を使って精米しているのです。水車小屋の中は、普段入れませんが、精米の日には公開されますので、掲示が出たら是非、見に来て下さい。

## 4. その他

### (1) 米を挽いて米粉にする: 石臼

民家園には石臼もあり、これでお米を挽いて米粉にします。とても重いですが、白い粉が出てくると嬉しいものです。この米粉は、民家園の別の行事でお団子になって出てきますよ。



石臼

### (2) 稲藁から縄を作る: 足踏み縄ない機

農作業では縄をたくさん使います。脱穀して残った稲藁から縄を作ることは、農閑期の大事な仕事でした。昔は手により合わせていましたが、民家園には、1945年頃普及したといわれる、機械式の足踏み縄ない機があります。藁を二つの差し口に少しずつ差し込むと、足踏み動力で自動的に縄になり、胴に巻き取られていくのもので、歯車が大小11個が調和して動く様子は、機械仕掛けの芸術品です。



足踏み縄ない機

### (3) 麦や大豆の実を叩いて殻を取る: 唐竿(クルリ棒)

名前の通り、中国伝来。竹竿の先に回転する棒を取り付け、籾(むしろ)の上の穀物に打ち付けて殻を取ります。沖縄のヌンチャクは、これを基に考案されたとか。結構重いですよ。

いかがですか?昔はとても苦勞して稲からお米を作っていたんですね。お米一粒でも大事にする気持ちがわかってきます。秋晴れの下、体験を楽しんで下さい。(伊藤 健一)



クルリ棒

# ちょっとおしゃれなカラスの仲間たち

どこへ行っても嫌われ者のカラス。ゴミを散らかす、集まって騒ぐ、巣に近づくと襲ってくる、などの行動に加え、全身黒づくめの姿が、ますますイメージを悪くしているのかもしれませんが、ところがカラスの仲間には、姿が美しいものもあります。泉の森周辺で見られるおしゃれな2種類をご紹介します。

## カケス (懸巢 カラス科 カケス属)

樹上に枯れ枝でお椀型の巣を懸けるので「懸巢」と言われるようです。また、ドングリが好きなので、ドングリのなる木「榿の木」から榿鳥(かしどり)とも呼ばれています。

ここ「泉の森」でもドングリの生る所に姿を見ることが多いようです。カラスの仲間なので、濁った声で「ジャー、ジャー」と鳴きますが、とても鳴真似が上手なんです。あのしゃがれた声のどこに他の鳥の声や、いろいろな音の真似をするとは思いませんでした。

というのは、以前、飛べないカケスを我家で預かったことがありました。泥だらけで鳥かごに入れられたカケスに、お風呂場でかごの上から水をかけて洗った時、翼にある青と黒の縞模様がびっくりするほど綺麗でとても目立ちました。つぎの朝、息子が髭剃りに使う髭剃り機のシャーシャーという音に真似て、かごの中で小鳥のような細い綺麗な声がありました。その音を聞いて、家の者が、「何の音？」と探しにきました。本当に、笛を吹くような可愛い声でした。一週間ほど預かっている間、毎朝、この声は聴くことが出来ました。部屋の中で自由に飛べるまで一緒に遊んだことが今でも思い出されます。(藤井和子)



← 幹の陰にひそむカケス。でも上の記事に書かれている青と黒の美しい縞模様は、はっきり見えています。

オナガの粋な後ろ姿。→ 体長の半分は尾。地面に降りている時は尾が邪魔になるらしく、ピンと上に立てていることが多いようです。

写真: 金子精一氏(座間市)



## オナガ (尾長 カラス科 オナガ属)

わずかに灰色味をおびた淡いブルーの翼。すらっと長く伸びた尾も同じブルーで先端は白。頭はつややかな黒。けして派手ではないけれど、つい目で追ってしまうこの鳥の配色は、気品ある熟年女性に似合いそう。声もきっと、きれいなんだろうなあ…と思ったら、「グェーイツ、グェーイ」「グェーイ、グエイグエイグエイ」！ しかも集団で大騒ぎ。やかましさは、やはりカラスの仲間でした。それでも春から夏の繁殖期には、「ピューピュー、キュルキュル、フィフィ」などと甘くやさしい声で鳴き合うことがあります。きっと家族への愛情が声に現れるんですね。

オナガは「大和市の鳥」に選定されていますが、その理由は「市内で多く観察され、色や姿が優美で、尾を広げて飛び立つ姿が未来へ向け飛翔する大和を象徴する」からだそうです(大和市HPより)。別名が「ヤマトカササギ」だから、という説もあります。選定理由に「市内で多く観察される」とあり、確かに泉の森周辺にも一年中生息していますが、「必ずオナガに会える場所」というのは少なくとも泉の森の中には、ないような気がします。でも、これからの季節は、柿の木に集まっているのを見る機会が増えるでしょう。果物が大好きなんです。他にも木の実、昆虫など、いろいろなものを食べます。キャットフードを食べた、という記録もあります(『神奈川の鳥 2001-05』日本野鳥の会神奈川支部 2007)。なんでも食べるという習性も、やはりカラスの仲間ですね。

ところでオナガは、西日本には生息していません(本州では福井-岐阜-愛知を結ぶ線より北に分布)。オナガのいない地域にすむバードウォッチャーにとっては憧れの鳥。とは言っても、オナガを見るためだけにわざわざ旅に出る人は少なく、たいして用事があって関東へ来たついでに時間を作ってオナガを探しているようです。「横浜に出張や！オナガめっちゃ見たいねん！その辺で見れるとこ知らへん？」なんて聞かれたことのあるバードウォッチャーも多いのではないのでしょうか？(小林みどり)

次号は2014年1月に発行の予定です。どうぞ、楽しみに！

# なんでも休み時間 ⑤ 壊古の蚕話

(中・小田美希)

さらに昔の書物。  
農間之縁、男者繩をなさん  
女者蚕少々飼申候

深見村地誌 取調帳  
天保二年(一八三六)

子どもを育てに  
「お蚕を飼ふ」  
「お蚕を飼ふ」

高座群大和村の養蚕は  
江戸後期に始まり、本格的な  
産業となったのは五〇年代  
でした。

3)

旧北島家では、トッテすく  
はた織り機や糸車が  
目につきます。

1)

遠くない昔、現在の泉の森辺りは  
養蚕が盛んで、たのびです。

教育の二環としてカイコサレを飼  
う学校も多いように、私の小学校も  
全クラスでカイコつを飼育して  
います。

では  
昔の深見、上草柳、下草柳に盛った  
養蚕の歴史をみましょー。

5)

特有の  
触角

翅は大いかに  
飛べない

目は遠く  
見えない

嗅覚が  
鋭い

腹は大いに  
飛べない

カイコカ  
昆虫の家畜。  
純白の成虫の姿は美。  
目は見え、ロモグムトなく食事不可。  
メスは一晩で5万の卵を生む。  
オス・メスが同じ姿。

4)

江戸後期の書物には

八王子ハ織ヲ専トシ  
(長津田)  
長十鳥鶴間ハ養蚕ヲ  
専トス。

海辺華山『游相日記』  
天保二年(一八三二)

とあります。

2)

裏面へつづく

明治4年には、62戸の  
農家戸数中59戸が  
養蚕業をしていました。



太平洋戦争で輸出先の  
米価と争うまで、勢いは  
止まらなかつたのです。

6)

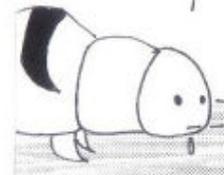
最も質を重視し、引地川治  
いには、養蚕工場が立ち  
並び、多くの女工が  
働いていました。



9)

カイツを飼うには勿論  
「クワ」が必要です。

オナカ  
スィタ



10)

オカイツさんは農家の  
「高額副収入」換金作物  
として、莫大な財産でした。

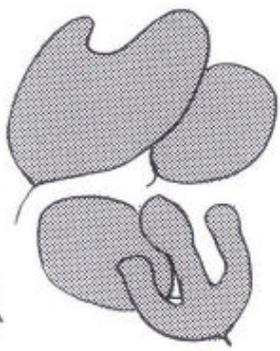
いい蚕は、  
生活を  
まよる  
こと

由豆作よりも  
大切でした



7)

人モ母乳と糖乳食や食料  
とありようは、カイツも節によ  
り食べやすくなりました。



クワについては  
夏号に出ています!

大和村の多くは、桑畑が  
広がっていたといえます。

11)

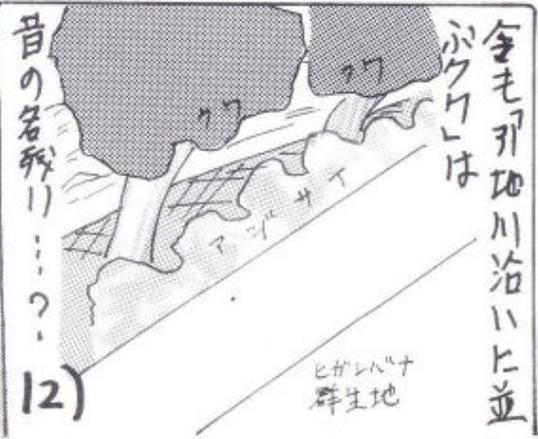
民家園では、絹玉展示、または織体験を毎年  
行っています。



完

上草柳では卯月の十四日  
オカイツをりを  
したといえます。

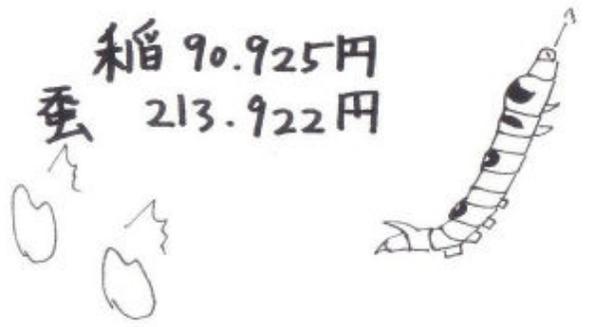
8)



ヒガシヤマ  
群生地

12)

稲 90.925円  
蚕 213.922円



主な作物、稲と比べて  
みても、このとおり。